

心のゆたかさをはぐくむ②

## 装うことで「自分らしさ」を取り戻す①

前回は、社会の中でストレスと向き合い、心の健康を保つていくための癒しの効果を紹介しながら、様々な規制を余儀なくされてしまいがちな福祉サービス利用者の、生活を豊かにするためのサービスのあり方を考えました。

今回から二回は、生活の中の「装い」に焦点をあて、様々な活動を紹介しながら、その効果と課題について考えてみたいと思います。

今月は、日本ロイヤルライフセイビング協会の「スキンカモフラージュ」の活動から、「化粧」の効果について考えてみました。

## スキンカモフラージュって何？

「スキンカモフラージュ」とは、病気やけがなどによって皮膚にできる痣や傷などを、特殊な化粧クリームを使用して目立たなくするというもの。

今から約三十年前に、イギリスの赤十字が政府の要請を受けて普及活動を始めました。我が国では、「メデイカルメイクアップ」や「カバーメイク」等の名称でも紹介されています。

「以前、福祉施設で高齢者の化粧ボランティアをしていた際に、この技術があることを知り、本格的に勉強をしようと、渡英して講習を受けました。イギリスでは、スキンカモフラージュは、病気や事故などによる皮膚疾患で悩む患者の、社会復帰のために必要な医療の一端を担っています。必要な場合は無料でカウンセリングを受けることができたり、使用する化



スキンカモフラージュによって求める結果はさまざま。だからこそ充分声を聞くことが大切だと白石さん（左）

粧クリームに健康保険が適用されたりと、社会的な理解度の高さは驚かされました」と話す白石の子さんは、日本ロイヤルライフセイビング協会（以下、協会）の北海道代表。水難救助技術の普及から始まった協会が、命の尊さを伝える取り組みの一つとして始め

たこの技術を広めていこうと活動しています。

## 指先の感触からその人を知る

白石さんに、実際にスキンカモフラージュを行っていただくことにしました。協力していただいたのは、この技術を普及していかうと、四月に開催した講習会に参加されていた講習生さんです。



130色にも及ぶ化粧クリーム。それでも肌の色は人それぞれなので何色あっても決して充分ではないとか

生まれつき右の頬に痣があったため、それを隠そうと、これまで様々な方法を試したという彼女は、「肌に合い、しかも自分で手軽に施すことができる方法や化粧クリームには、なかなか巡りあえませんでした。痣があるせいで頬を出す髪型ができない、クリームを使っ

ても、すぐ落ちてしまうようなものでは襟のある服を着ることができないなど、おしゃれも制限されてしまうのがとても辛かったです。

講習会では、自分でできなければ意味がないということで、技術の習得だけでなく医療的な知識や心のケアの大切さなども学びました。また同じような悩みを持つ方々にも出会う機会となり、いろいろな意味で大変勉強になりました」と話します。

化粧水などで肌を整えた後、その日の肌の色合いを確かめながら進めます。使用するのは約百三十色もある化粧クリーム。できるだけ簡単に塗ることができるように、その人の肌色に合った一色を選びますが、この作業が大変難しく、色を選ぶ感性が求められます。そうして選んだクリームを少しずつ指や海綿筆を使いながら肌にのせていきます。天候や体調はもちろんのこと、その日の気分などでも変ってしまうという肌の表情を、白石さんは、肌に触れ、そして相手に語りかけながら確かめていきます。

## 自分自身を克服するために

スキンカモフラージュは、技術の習得もさることながら、この語りかけていく時間を持つことが、最も大切なことだと白石さんは言